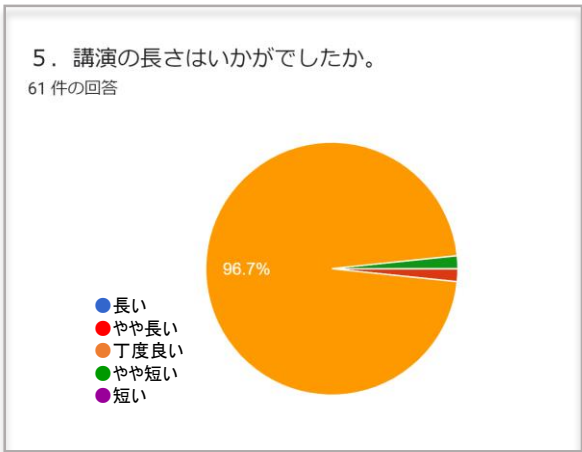
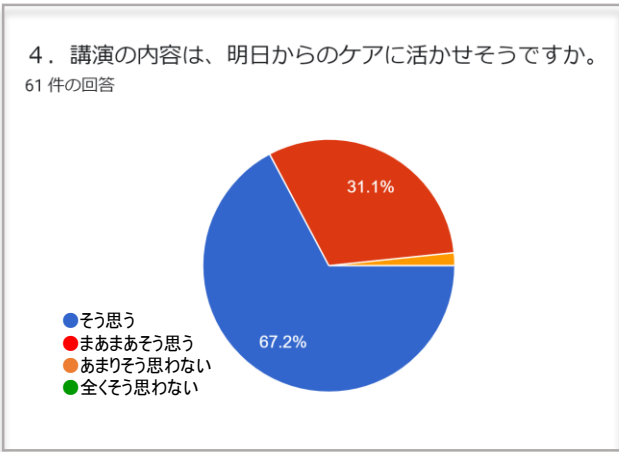
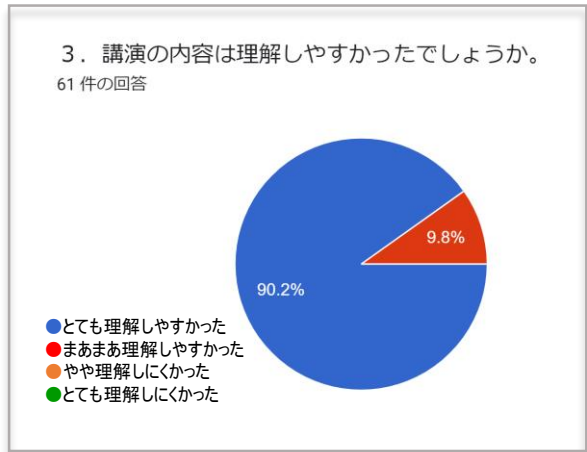
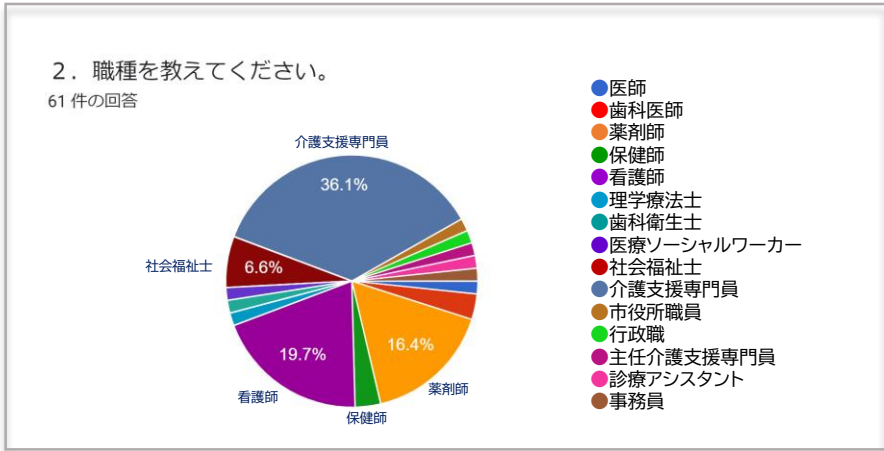
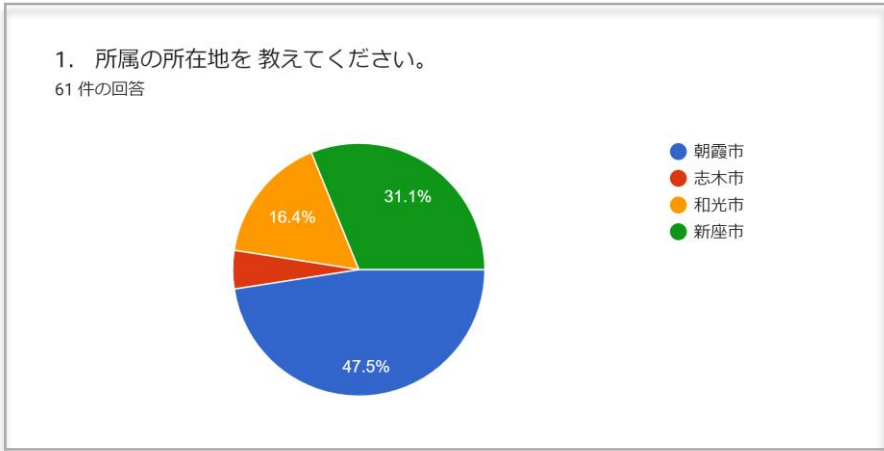


令和5年7月19日(水)18:30~20:00 在宅緩和ケア研修会(オンライン開催) アンケート集計結果

【講 師】独立行政法人国立病院機構 埼玉病院緩和ケア内科 部長 春日 真由美 先生

【講演テーマ】つながり、ささえる在宅緩和ケア

■ 申込者: 124名
 ■ 当日参加者: 73名
 ■ アーカイブ再生回数: 58回
 (配信期間7/20~7/26)



6. 研修会の感想をご記入ください。

- ・麻薬の対応など詳しく知ることができた。家族にもわかりやすく説明できる。
- ・うなづきながら聞かせて頂きました。
- ・先生の丁寧にご患者さんを見られているお話に感動しました。また、スピード感をもって在宅に移行したり、とても参考となりました。
- ・分かりやすく、勉強になりました。ありがとうございました
- ・とてもわかり易かったので本日参加できなかったスタッフにもアーカイブで見てもらおうと思います
- ・根拠のあるデータと事例により現場の状況がよく理解できました。
- ・最近がん末の方の相談が増えていると感じていたのも、大変興味深かったです。
- ・いつも新堀店が大変お世話になっております。今回のご講演を拝聴することで、先生の処方意図がとてもよくわかりました。今後とも連携をどうぞよろしくお願いいたします。
- ・わかりやすく聞きやすかったです。
- ・長さは良いと思いますが、18:30スタートだと参加が業務終了・帰宅後間に合うかどうかという時間でもあり、19:30スタートなどの方が参加しやすい方が多いのではと感じました。
- ・新しい知識を学ぶことができました。
- ・実際診療されている事例を通しての講演だったので、具体的でわかりやすかった。医療者がバリアにならないよう、寄り添える支援者でいたいと思った。
- ・事例を通しての研修にためとても勉強になりました。多職種連携の重要性を改めて感じる事ができました。ありがとうございました。
- ・緩和ケアでの流れなどはよくわかったが、医療職ではないケアマネやサービス事業所との連携や多職種で意思決定支援を行ったのかなど聞きたかったです。
- ・医療職ではないので、薬の名前等は良くわかりませんでした。全体的にとてもわかりやすかったです。
- ・わかりやすかった
- ・事例を用いて説明して頂きとてもわかりやすかったです。
- ・現在、癌末の方のプランを実施しているため、薬の事、今後の進行状態、意思確認等について、理解を得る事ができました。
- ・とても分かり易かったです
- ・数値のよるデータと事例からのお話だったのでとても説得力のある研修だった
- ・自分の家族が、末期ガンになったらどう思うだろうかと考えてしまいました。そういう時に先生の言葉は本当に心強く感じると思います。自分もケアマネとして、本人、家族の希望を聴いて実現できる様に頑張りたいと思いました。

- ・最後をどう過ごしたいか、本人と周囲の人たち皆で希望を支えていくことを実現されていて、私も訪問看護師として、今回の研修で学んだことを活かしていきたいと感じました。
- ・先生のお人柄で安心して家に帰る選択ができる患者様やご家族も多いのではと感じました。
- ・とても分かり易く、先生のお人柄が伝わってくる温かな勉強会でした。またの機会を心待ちにして、また明日から頑張っていくと思いました。
- ・とてもわかりやすく、先生のお人柄も感じられる講義でした。
- ・最近、ガン末期の相談が多くなっているように感じます。事例を通して、受ける側の対処方法やどこまでやれるのかを具体的に知ることができ、とても有意義に感じました。
- ・在宅緩和ケアにおいて、色々な場面を想定しレスキュードーズの種類や置き薬の調整が重要であると思いました。また、それぞれの場面に応じた意思決定の支援を行って行くことも大切だと感じました。
- ・退院前からの医療との関りの重要性や本人、家族の病状、予後の理解をもって在宅の選択を行うことへの重要性をとっても感じています。在宅での緩和治療を希望されて退院されてもその後の本人、家族の心境の変化などを見逃さず、状況に合わせて医療と相談をしながら支援をしていきたいと思いました。ありがとうございました
- ・事例により、分かりやすかった。
- ・どんな方でもお家に帰せるという言葉聞いて、普段私はお家の環境が整わないと難しい、失敗すると思い込んでいたので間違いに気が付きました。正解はないと思っていますが、最後の最後なので失敗したと思いたく無かったただだったなあと感じました。それぞれの環境の中で適した在宅看取りを提案できる様に病院ともしっかり連携を取らなければいけないなあ、でもハードル高いからあんまりやりたく無いなあ、と思いました。回数を重ねる事でハードルを下げることもできるかも知れないな、とも思います。明日から色々な看取りを想定して細かい事まで相談して、安心してお家で過ごしてもらえたいです。
- ・研修を受ける前に比べ、在宅緩和ケアについて前向きに考えることができるようになった気がします。ありがとうございました。
- ・緩和ケアに限った事ではないですが、一人ひとりの希望に寄り添い柔軟に支援していくことが重要だと改めて感じました。また、患者の方に対しては多様な選択肢や情報を与えますが、一方で患者の方の意向などは無理矢理聞き出すのではなく、少しずつ思いを伺っていくというポイントが今後の支援に生かしたいと思いました。
- ・あと30分くらいあとが良い
- ・若い方（40代～70代前半）のターミナルケースが増えてきていると感じています。患者の心の葛藤や在宅での緩和方法（薬）など詳しく知ることができました。
- ・疼痛緩和の麻薬に、今回は自分の親族が癌闘病時に使用していたことがあり、聞いたことがあったが、基礎資格が福祉職だと知識が不足していると感じた。

- ・ 実例での解説が多く、具体的でわかりやすかったです。家に帰れない患者さんはいない、と深く刻みこみました。とはいえ、ご家族の不安も理解できます。ご家族がどうすれば安心して在宅を受け入れられるのか、患者さんの最期の願いを叶える支援ができるよう今後も学び続けていきたいです。
- ・ 症例に上がった患者さん方々、とても懐かしく思いながら拝見致しました。現在クリニックでは（希望ノート）を患者さんへ配布して意思決定支援のお手伝いを行なっております。ノートに記載されている内容だけではなく、ご自宅で過ごす為の患者さん、ご家族の希望を詳細に伺い支援していくことが大切だと改めて実感し多くの事を学ばせて頂きました。ありがとうございました。
- ・ 事例で説明いただき大変わかりやすかった。
- ・ 薬剤の選び方が参考になりました。
- ・ 資料が見やすく、音声もきれいに聞こえて良かったです
- ・ 早急な対応や考えられる状況に備えることが重要だと分かりました。実際見学していて医療職の方には聞けなかった処置も知ることが出来たのは良かったです。
- ・ とても分かりやすい研修会でした。症例をいくつかあげて頂いたので、より分かりやすかったです。「最後の希望をできる限りかなえられるよう支援していく」を今後も忘れずに、多職種の一員として努めていきたいと思いました。
- ・ 現在緩和ケアを必要する方がいないのですが、また関わる時の参考になりました。在宅では多職種の連携が欠かせないので。
- ・ ありがとうございました
- ・ 医療サイドからの具体的な支援について教えていただけて、勉強になりました。
- ・ 緩和ケアは今後も必要になる事であり、地域の薬局も取り組むべきことであると思った
- ・ 事例を通して説明していただいたので、わかりやすかった。
- ・ 実例を挙げての紹介がたいへんわかりやすかったです。薬局の現場では処方箋1枚を通してのみの情報で訪問をすることもあり、訪問している先生がどのようなことを考えているかがわからず、おうちの状況からくみ取ったり、患者様から情報を伺ったりすることも多いです。今回のご講演で、先生の処方意図や説明の仕方・話し方など、実際の我々の説明にも生かせる内容となっていてうれしく思いました。またお話を聞きたいと思えるご講演本当にありがとうございました。
- ・ タイムリーな症状緩和と意思決定、在宅では関わる全ての職種でアンテナを立て、連絡相談がいつでもできる体制(顔の見える関係)を作っていきたい。
- ・ 症例のご紹介をして頂いたので、とても興味深く、わかりやすかったです。春日先生ありがとうございました。在宅緩和ケアをチームで関わりを持つことで、患者、利用者の暮らしを継続できるように支援できる。緩和ケア研修会に参加して学ぶことが出来ました。ありがとうございました。
- ・ 日常業務にて、医師のとの関わりを持つこともあるが、実際に取り組みを聞くことができ、より身近に感じる事ができた

7. 今後、緩和ケア研修会で取り上げてもらいたい内容がありましたらご記入ください。

- ・中核的な施設が持ち回りで症例を提示し、振り返る「ケースカンファレンス」。
出すのは看護師さんでも介護職の方でも良いかと思う。
- ・多職種連携を詳しく
- ・緩和ケア病棟にすぐに入れない、高額であるという話を聞きます。使える制度など教えて欲しいです。
- ・緩和ケアの多職種連携についてお聞きしたいです
- ・今回のように事例をもとに講義頂くと、自身の受け持つケースと重ねる事ができ、理解しやすかった。
- ・特にありません
- ・ホスピスの利用方法（手続きや場所）や過ごし方など。ご本人やご家族から聞かれる事があります。
- ・症例を通じて、チームケアについて学びたい。グリーフケアについて学びたい。
- ・家族支援、残された家族のその後を追跡していれば・・・
- ・大腸がん転移でこれ以上の治療はないといわれ在宅で療養していますが、本人は緩和ケア病棟に入院を望んでいます。緩和ケア病棟は、どんな症状になったら入院できますか？体調が回復したら退院となりますか？緩和ケア病棟とホスピスとの違いは何ですか？
- ・訪問するが、触らせてもらえないことも多く関わりに困ることがある。家族の負担軽減になればと…その時の対応。なにをすれば、ご本人との関わり家族への配慮の仕方
- ・特にありませんが、可能な限り参加したいです。
- ・今回の講演でも触れてましたが、独居の方（ケアラー不在）の方の緩和ケアに介護と医療がどこまで何ができるのか、一緒に考えることができる場を提供してほしい。孤独や不安を感じやすい環境で、介護保険の単位上限でサービスが入れられない状況。どう工夫しているか知りたい。
- ・多職種との連携の方法
- ・事例検討会(多職種で関わりの中で困ったことや、この支援が良かったなどの振り返り)
- ・今回のように地域での実践例が学べると有難いです。